

野尻湖発掘調査の赤羽団長に聞く

# ナウマンゾウと人 かかわりを解明へ

信濃町で二十三日に始まった第十七次野尻湖発掘調査。前回は、オオツノシカの切歯が見つかるなど、一帯がキルサイト(狩猟解体場)だったとする仮説の立証に一歩前進した。今回の展望を、団長の赤羽貞幸・信大教育学部教授(61)に聞いた。

―調査の目的は。  
「三万五千―五万年前の氷河期時代のナウマンゾウと人のかかわりを解明がすこ」と。当時の人がナウマンゾウを実際に狩っていたことを示す物証を見つけ、キルサイトだったことを立証したい」

―何が物証になるのか。  
「ナウマンゾウの化石に、やりなどの道具を使った跡が見つかるといい。狩りや動物を殺すために使ったと思



団長の赤羽貞幸・信大教育学部教授

われる道具の化石と非常に近い場所から化石が出てくるといったことも証拠になる」

―全国でも珍しい一般参加方式の利点は。  
「参加者が自主的にお金と時間を使って楽しみながら発掘をしている。発掘にお金を掛けられない調査団の事情とうまく合った仕組みだ」

―野尻湖発掘調査の持つ魅力は。  
「職業、年齢、住まい、さまざまな立場の人が湖畔に足を運び、交流も芽生えている。解明かされていない謎もたくさんある。四万年前の世界に直接触れ、当時の状況がだんだん分かってくるのは歴史好きにはたまらない。いくらやっても掘り足りないくらいだ」

―どんな調査にしたいか。  
「楽しい十日間にしたい。個人としては、どんな化石が出てくるのかといったことに一番興味がある。子どもたちもたくさん参加する予定なのだ」

で、それぞれに素晴らしい出会いがあったほしい」

## 野尻湖 17次発掘始まる

立が鼻遺跡で二十三日、第十七次野尻湖発掘調査が始まる



全国から大勢の人が参加し、2年ぶりに始まった第17次野尻湖発掘調査＝信濃町の野尻湖・立が鼻遺跡

七次野尻湖発掘調査が始まった。二〇〇六年三―四月の前回に続き、四年以上前の地層を掘り起こして一帯がキルサイト(狩猟解体場)だった痕跡を探る。

【関連記事北信面に】  
調査団長の赤羽貞幸・信大教授や町関係者らが「くわ入れ式」をして調査の成功と安全を祈願。参加者は五班に分かれ、四辺四方に掘った溝でそれぞれ作業した。移植こてや竹べらで土を取り除くと、哺乳類の骨片や針葉樹の実の破片とみられる化石などが出土した。

調査は三十一日まで行い、全国の計二百六十人余が参加する。三十日午後六時四十五分からは信濃町公民館野尻湖支館で成果報告会を開く。

調査団顧問で信大名誉教授の酒井潤一さん(71)は「石器が刺さった動物の骨などが見